

令和4年度 事業報告

令和4年（2022年）度は、新型コロナウイルス感染症が収束に向かいつつある中、ロシア・ウクライナの問題に直面し、世界的なエネルギーの高騰や円安の影響で、特に国外アーティストの招聘への対応が難しい状況の下での事業展開を強いられることとなりました。そうしたなか、新型コロナウイルス感染症の影響によって開催が危ぶまれていた第8回仙台国際音楽コンクールが、無事開催されたことは、楽団運営に明るい材料となりました。

また、新型コロナウイルスの感染が拡大・縮小を繰り返す中で、演奏会に安心してご来場いただけるよう、お客様に対し、ガイドラインに則った感染対策の実施状況やこれによる公演の安全性を、ダイレクトメールの送付やインターネット等の配信などによりお知らせしました。こうした取り組みによって、定期演奏会への来場者数はコロナ禍以前の水準に回復してまいりました。

令和5年度に入り、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行し、コンサートの運営形態も徐々に平常時の形態に戻しつつありますが、引き続き安全・安心な公演をお届けできるよう、必要な対策は継続してまいります。

1. 楽団経営健全化への取り組み

令和4年度は「経営健全化に向けた新たな取り組み」の5年目でした。

引き続き「適正な編成規模への見直し」により経営の健全化を図ることを大きな柱としてきました。

退職者不補充により、パート毎に定めた適正な人数を令和9年度（2027年度）には達成（楽団員66名体制）することを目標としておりますが、定年前退職者も発生しており、令和4年度末現在の楽団員数は64名となっております。

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した依頼公演に代わる新たなコンサートを獲得すべく、文化庁がコロナ禍における地域の芸術文化の振興や需要喚起を目的として実施した「オーケストラ・キャラバン」事業（新規2公演獲得）や「文化芸術による子供育成推進事業」（新規14公演獲得）にも積極的に応募しました。

また、第九特別演奏会は、ARTS for the future!2 事業（コロナ禍における積極的な公演等に対する新たな補助制度）に採択され、2年連続で補助金の交付を受

けることができました。

2. 交響管弦楽の演奏

(1) 定期演奏会（9回（18日）：18公演）

令和4年度は、常任指揮者飯守泰次郎、指揮者角田鋼亮のラストイヤーという事もあり、この5年間の集大成を発表するような取り組みを、また同様に5年間レジデント・コンダクターを務めた高関健は次年度より常任指揮者就任という事もあり、期待感を与える構成といたしました。

4月15日、16日の第354回定期演奏会は、仙台フィル指揮者の角田鋼亮と、今をときめく若手実力派サクソ奏者でテレビ出演などでもおなじみの上野耕平とのコンビによるフレッシュな顔合わせでした。

仙台フィル初演奏になるボックスの交響詩は、アーサー王伝説の舞台となった「ティンタジェル城」をモチーフに描かれた映画音楽とも思われる壮大な音楽で、初めて作品に触れる方にとっても聴きやすい作品だったと思われます。

続くイベールのサクソフォン協奏曲は指揮者・ソリストに加え仙台フィルメンバー精鋭11名による立奏形式で演奏。1曲目のモチーフに引き続き、アーサー王（指揮者）と円卓の騎士（演奏家）が集うような演出を施し、上野の巧みな技巧と少人数のオーケストラメンバーによる緻密なアンサンブルで聴衆を魅了しました。引き続き演奏されたトマジの「バラード」は演奏機会こそ少ないものの、卓越した上野の技量により見事な演奏を届けました。

メインはムソルグスキー作曲／ラヴェル編曲の「展覧会の絵」。この作品でもオーケストラのサクソパートに上野が入り演奏するという贅沢な編成を展開し、指揮者の角田はそれぞれの楽器の特色を生かし、あまり厚塗りせず透明感のある演奏を届けました。

5月6日、7日の第355回定期演奏会では、今年度で退任する常任指揮者の『飯守泰次郎フィナーレ第1弾』と称し、飯守と取り組んできたブラームス作品の集大成であるピアノ協奏曲第1番と交響曲第4番を披露しました。

ピアノ協奏曲は平成14年（2002年）モーツァルト国際音楽コンクールで日本人として初めて優勝に輝いた菊池洋子との共演。ブラームスがまだ若い時期に頂点を目指して作曲したピアノ協奏曲を、オーケストラは情熱的に演奏し、菊

池はその響きに歌心を乗せつつ流されることなくしっかりと自立する旋律を奏でました。

後半は、ブラームス最後の交響曲による飯守とのブラームスシリーズの完結でした。飯守のタクトに導かれ、弦楽器は一糸乱れぬ見事なパフォーマンスを發揮し、管楽器のアンサンブルは小さくまとまることなく作品に込められた熱い息吹を表現することに専念し、打楽器群も細部まで神経を渡らせた音楽を奏でていました。

7月15日、16日の第356回定期演奏会は、令和6年(2024年)12月での引退を表明している井上道義を招き、オールアメリカンプログラムを披露しました。

井上は平成23年(2011年)4月18日、東日本大震災によりオーケストラとしての活動ができなくなった仙台フィルを石川県立音楽堂へ招き、オーケストラ・アンサンブル金沢との共演に導いてくれた仙台フィルにとっては恩人的な存在です。この合同演奏会で仙台フィルは息を吹き返し、その後の精力的な復興コンサート活動へ繋がっていきました。

1曲目のコーブランド作品「クワイエット・シティ」はトランペットソロとコールアングレソロが活躍する作品でニューヨークが舞台。ユダヤ人の少年を表現したトランペットは首席奏者の浦田誠真が、ホームレスを表現したコールアングレには日本のコールアングレ奏者の中でも実力が高いと評される木立至が務め、井上の発案により衣装と舞台上の演出も加わり、独特の世界観を表現しました。

西部開拓時代の無法者「ビリー・ザ・キッド」をモチーフにした2曲目は、その人物の躍動する姿とその生涯の最後を表現した作品。オーケストラは井上の踊るようなタクトに呼応し、アメリカの原風景を見事に表現しました。

メインの作品はグローフェの組曲「グランド・キャニオン」。ある程度の世代以上の方であれば“山道に行く”を必ず音楽の授業で聴いていたためなじみ深いと思われそうですが、実は全曲演奏される機会は極端に少ない作品です。「世界遺産にもなっている大峡谷の1日の表情を巧みに表現し、壮麗で時に激烈な自然を模したダイナミックな響きや、ユーモアを含めた各楽器のソロなど、管弦楽の魅力方を十分に伝えてくれた」と評されました。

9月16日、17日の第357回定期演奏会には、4年半ぶりの定期演奏会となる桂冠指揮者のパスカル・ヴェロが久々の登壇。あいさつ代わりにと、ストラヴィンスキーの室内オーケストラ作品「ダンバートン・オークス」により、長年仙台フィルと培ってきた阿吽の呼吸を見事に表現しました。

歌心溢れるヴェロならではの演奏に期待を寄せたシューベルトの交響曲第5番は、予想を上回る仕上がりを見せました。弱音から強音までスムーズに響かせるヴェロのバトンテクニックに、弦の滑らかな響きや管楽器の美しい音色で応えるオーケストラとの交歓が表現された仕上がりとなりました。

ヴェロ得意の「ペトルーシュカ」は冒頭のフルートの音色からフランス音楽のエスプリがたっぷりな歌いまわしで始まり、色彩豊かな音色、緻密に表現されたダイナミクス、計算されつくしたテンポ設定などヴェロワールドが炸裂し、多くの聴衆に懐かしくも鮮烈な印象を与えました。

10月7日、8日の第358回定期演奏会は『飯守泰次郎フィナーレ第2弾』として、これまで飯守と取り上げてこなかったロマン派のドヴォルザーク、シューマンのカップリングを実現しました。

ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーと取り組んだのちにこの二人の作曲家を飯守と取り上げることは、仙台フィルにとって自然な流れでした。

ドヴォルザークの珠玉の名作「チェロ協奏曲」のソリストには、長い伝統と権威を誇り、1位入賞者を出さないことでも有名なミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門で、令和元年（2019年）に日本人初の優勝者に輝いた佐藤晴真が仙台フィル初登場を飾りました。明快な弓さばきで郷愁溢れる音楽を表現するとともに、けれん味なく歌うチェロを飯守が真正面から受け止め、オーケストラは甘さを控え厳格な美しさを表現しました。

シューマンの交響曲第3番「ライン」はドイツ音楽を極めてきた飯守にとっては十八番の作品。過度な感情移入を排し、少し早めのテンポで音楽そのものの魅力を聴衆に問いました。「老練な指揮、明朗な音を描く」と評されたこの定期演奏会はまさに百戦錬磨の飯守ならではの世界観を提示できました。

11月18日、19日の第359回定期演奏会は、国内主要オーケストラで活躍し広島交響楽団音楽総監督でもある下野竜也を4年ぶりに招き、ソリストには仙台フィル初共演で2009年に世界最難関と言われるハノーファー国際音楽コン

クールにおいて史上最年少の16歳で優勝し、世界中で活躍中のヴァイオリニスト、三浦文彰を抜擢しました。

この定期演奏会のテーマはウィーンの音楽。ウィーンで活躍したハイドン、モーツァルトの時代の音楽とベルクとの対比。それは光と影、明と暗という作風に表れています。モーツァルトとハイドンの交響曲はどちらも41番、しかもハ長調という下野の粋な計らいで耳なじみのある作品を提示し、一方で三浦の奏でるベルクは12音技法を駆使した現代音楽に近い作風。作曲の動機となった最愛なる人の死と安らぎへ紡ぐフレーズは、聴き手を夢幻の世界へ誘う蠱惑的な音楽を醸成し、三浦の超絶技巧も冴えわたりました。

ウィーンで活躍した作曲家のそれぞれの音楽を下野が念入りに仕上げていく過程を身近に感じ取れるコンサートと評されました。

1月27日、28日の第360回定期演奏会では昨今指揮者界を賑わせている新進気鋭のフランス人指揮者、マキシム・パスカルを初招聘し、仙台フィルとしても初演奏となるフランス現代作曲家デュティユーの難曲である交響曲第1番に挑戦するとともに、フランス人作曲家の大家ラヴェルのスペイン狂詩曲、仙台フィル初演奏となるイギリスの作曲家ブリテンの歌劇「ピーター・グライムス」より“3つの海の間奏曲”、そして滅多に演奏されることのないムソルグスキー作曲のはげ山の一夜の原典版を披露しました。

この定期演奏会の特筆事項としては、指揮者のマキシム・パスカルの驚異的な能力に尽きます。

ただでさえ難曲が並び、オーケストラにとっては技術的にもハイレベルな楽曲が揃う中、無駄のないリハーサルにより楽曲の構造を分かりやすく捉え楽団員に提示し、いつにも増して素晴らしい和声感やアンサンブルを引き出したこの若い指揮者の力量には、楽団員のみならず聴衆も気付いたようで、再登壇を望む声が内外から多く寄せられました。

また、話題の指揮者という事もあり、東京から多くの評論家や関係者も訪れ、指揮者の能力とともに仙台フィルのポテンシャルの高さにも賛辞が寄せられました。

2月17日、18日の第361回定期演奏会には、レジデント・コンダクターの高関健が登壇。ピアニストには仙台出身の小山実稚恵が8年ぶりに定期演奏会へ

出演しました。

小山のライフワークであるベートーヴェン作品の演奏は、2006年～2017年に“音の旅”としてリサイタルシリーズを仙台で開催し、2019年からは“ベートーヴェン、そして...”と題してピアノ協奏曲を取り上げていくシリーズも開催してありました。しかし、コロナ禍により第5番の協奏曲の演奏が不可能となってしまったと伺い、仙台フィルの定期演奏会でその集大成を披露していただこうと思ひ企画しました。

奥行きのある音楽、懐の深い音色により深い芸術性を示したこのピアニストに導かれ、管弦楽とピアノの対話の神髄、協奏曲の極意を感じました。

後半は高関が得意とするショスタコーヴィチの交響曲第10番。15ある交響曲の中でも最もショスタコーヴィチらしい作品で、彼の署名音階ともされるD-Es-C-H (=レ・ミ♭・ド・シ)があちこちにちりばめられています。

高関の明快・明晰なタクトに導かれ、オーケストラは一糸乱れぬ演奏を披露。相性の良さを見せつける好演となりました。

3月17日、18日の第362回定期演奏会は、5年間常任指揮者を務めた飯守泰次郎の常任指揮者として最後の公演となりました。飯守が最も得意とする2人の作曲家、ワーグナーとブルックナーを集大成のプログラムとして組み、仙台フィルとの5年間を締めくくりました。本場バイロイト仕込みの2作品へのアプローチについては「光沢のある風合い」、「新鮮な香気を感じさせる壮大さ」と評され、演奏後には万雷の拍手を受け、この定期演奏会からマスク着用ながら解禁された「ブラボー」の歓声に包まれながら終演し、カーテンコール時には仙台フィル会長である仙台市長の郡和子から花束も贈られ華やかに幕を閉じました。

シーズン初め、4月の定期演奏会で取り上げたバックスの交響詩「ティンタジェル」はイギリス南西端コーンウォールの荒波を見下ろす古城（ティンタジェル城）跡から靈感を受けて作曲された佳作でした。そして3月の定期演奏会で取り上げたトリスタンはコーンウォールの騎士。「トリスタンとイゾルデ」の“前奏曲と愛の死”で、2022年度シーズンの環が美しく閉じられました。

なお、各回の定期演奏会の様子につきましては、河北新報社様が記事を掲載し、広くご紹介いただいておりますことに感謝申し上げます。

(2) 特別演奏会 (8回：9公演 ※中止2回：2公演)

4月10日、毎春恒例の0歳児から入場できる子供向けコンサート「オーケストラと遊んじゃおう！2022」を、日立システムズホール仙台において3年ぶりに開催することができました。マスクを着用できないお子様に配慮するため客席の収容率を50%に制限し、感染症対策のため、以前は開演前に行っていたオーケストラのすべての楽器を体験できる「楽器博物館」を中止したものの、会場内3か所（コンサートホール舞台上、シアターホール舞台上、交流ホール）に弦楽四重奏や木管五重奏を配置し、指揮者体験を楽しんでいただくとともに、なじみのある演目で多くの家族連れの皆様に楽しんでいただきました。

8月21日、岩沼市民会館で開催した「マイタウンコンサート」には、東日本大震災以来、東北・宮城の被災地に想いを寄せ、何度も現地を訪れている元ベルリンフィルコントラバス奏者、ヴォルフ・ウルリッヒ氏を客演首席コントラバス奏者に招き、岩沼市長への表敬訪問や沿岸地区の復興状況の視察をしていただきました。

指揮者とソリストには若手実力派のお二人、松本宗利音とヴァイオリン奏者の辻彩奈を迎えました。演目も仙台フィル初演奏になるビゼーの序曲「祖国」と滅多に演奏されることがないビゼーの交響曲との間に、名曲のメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を挟むという意欲的な構成として、岩沼や仙南地区のみならず、コアなクラシックファンが興味を示すプログラムに挑戦しました。ヴォルフ氏の奏でるコントラバスは奇をてらわれないオーソドックスなスタイルにもかかわらず、弦楽器中低音が見事に集まる効果があり、オーケストラのメンバーも大変貴重な経験を積むことができました。

12月24日、25日開催の第九特別演奏会は今回も新型コロナウイルス感染対策による舞台上の合唱人数制約のため、公募の合唱団は40名程度とし、昨年に引き続き東京混声合唱団20名を招いての公演となりました。

指揮はこの第九公演が仙台フィル指揮者として最後の登壇となる角田鋼亮。

角田のアイデアにより、1曲目には現代合唱作曲家の大家、木下牧子の「たいようオルガン」を選曲し、この楽曲は東京混声合唱団と仙台フィルの共演としました。公募の合唱団や仙台の聴衆にプロの合唱団とオーケストラの共演作品を

披露し、その質の高い芸術に触れていただく機会を提供したこのアイデアは奏功し、地元合唱ファンのみならず第九ファンの胸にも大きな感動を残しました。作曲家の木下氏も招待し、木下氏からは仙台フィルの合唱作品への取り組みに将来への希望を感じたとの言葉をいただきました。

また、今回の第九公演では12月11日にプレ講座を企画し、講師に指揮者の角田鋼亮と合唱指揮者の佐藤淳一両氏を招き、楽曲の解説や歴代指揮者がどのように第九に取り組んできたかという解説を行いました。このプレ講座には定員がすべて埋まる受講者が参加し第九への関心の高さを感じました。

また、公演後には期間限定（12月26日～31日）の有料配信をテレビマンユニオンチャンネルで配信し、100以上の視聴数があり、わずかではありますが収益にもつながりました。

1月8日福島、1月9日いわきで開催したニューイヤーコンサートは前半に福島出身の箏奏者、遠藤千晶をソリストに迎え、現田茂夫指揮により新年にふさわしい和のテイストとともにお届けしました。

越天楽の主題による箏変奏曲では、厳かな新年の雰囲気醸し出しつつ、遠藤のしっかりとした技術に支えられ、和と洋の絶妙なハーモニーが生み出す音楽に多くの聴衆が酔いしれました。ソリストアンコールにはフルート首席奏者の戸田を抜擢し、本来尺八と箏で演奏する「春の海」をフルートと箏の二重奏版で披露、会場はさらに新年の香りに包まれつつ、戸田が奏でる尺八の音色に近いフルートの奏法に驚嘆する聴衆もおりました。

後半はリムスキー＝コルサコフの大曲「シェエラザード」。コンサートマスターの技量が問われるこの作品に、西本は期待に応え素晴らしいソロを演奏しました。また管楽器群のソロプレーヤーもその技術の高さを証明できる演奏となりました。

このコンサートのコンセプトは「オリエンタル」。日本からシルクロードを渡り、ペルシャに行きつく音楽の旅を味わっていただけだと思います。

コンサートの冒頭には、被災した東北のためにと匿名のご寄付をいただき、その原資により福島大学名誉教授の嶋津武仁氏に委嘱した新作曲、オーケストラのためのポエム「小石のごとく」を世界初演しました。

2月23日開催の「日本のオーケストラ音楽」展は、本来2020年5月23日に

開催予定としておりましたが、当時蔓延し始めた新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ず、ここに改めて延期公演として開催できる運びとなりました。

高関健プロデュースのこの演奏会は、日本の現代作曲家作品を見渡した時「これは外せない」という作品を集めてプログラミングされました。

現代音楽の中でも比較的聴きやすい作品をピックアップし、武満徹、間宮芳生、三善晃の代表作をお聴きいただきました。

中でも、間宮芳生の児童合唱とオーケストラのためのコンポジション「子供の領分」はバルトークやコダーイが当時採集していた民謡音楽と同様に、日本における民俗音楽学の権威である小泉文夫氏の採取・編纂に基づく昭和40年代に東京近郊で歌われていたわらべ歌をもとに作曲された作品で、懐かしいフレーズに頬を緩めた聴衆も多かったことと思います。

児童合唱には NHK 仙台少年少女合唱隊と宮城教育大学附属小学校有志の子どもたち33名が参加。難しい変拍子の音楽を暗譜で見事に歌い切り大きな喝采を浴びておりました。

仙台フィルでは長年、2年に1度の隔年開催で現代音楽作品を演奏しており、高関健プロデュースは2018年に続き2回目となります。

なお、令和4年3月に発生した福島県沖地震の影響により、東京エレクトロンホール宮城の大ホールが復旧工事のため使用不可となったことに伴い、他会場や別日程での開催を検討したものの、次の特別演奏会は中止としました。

- ・山響合同演奏会仙台公演（7月24日）
- ・サマーフェスティバル「仙台フィルハーモニー with アキラさん スペシャルコンサート」Vol.1（8月6日）

また、毎年12月に障害をお持ちの方とその同伴者を対象に開催している「もりのみやこのふれあいコンサート」は今回も無観客配信という形で取り組みました。

（3）依頼演奏会（61公演（新規13公演を含む）※中止14公演）

令和4年度も令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年開催されていた仙台駅でのコンサートや仙台市内の小学校5年生と中学校1年生を対象とした「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」（学校訪問ミニコンサートとして室内楽の形で開催）をはじめとする多くの公演が延期や中止となり

ました。一方で、開催が危ぶまれていた第 8 回仙台国際音楽コンクールは無事に開催されるなど、徐々に明るい兆しも見えてきました。過去最多の出場者がエントリーし、インターネット配信視聴者も過去最高に達するなど、国内外を問わず大きな関心が寄せられ、明るい話題となりました。

エントリーした受験者のレベルも相当に高く、仙台での予選に出場するための予備予選において審査員は大変な苦労があったと聞きます。

毎回のことではありますが、オーケストラは献身的に出場者を支え、その演奏は国際的な審査員から高く評価されるとともに、出場者からも感謝の言葉が絶えませんでした。

またヴァイオリン部門とピアノ部門のスケジュールの合間を縫って、6月10日には（6月9日仙台公演は東京エレクトロンホール使用不可のため中止）、世界的なヴァイオリニストの巨匠、ギドン・クレーメルとそのクレーメルが信頼するチェリストのギードレ・ディルバナウスカイトを招聘し、東京オペラシティコンサートホールにて、レジデント・コンダクターの高関健の指揮によりアイリスオーヤマクラシックスペシャル 2022 が開催されました。エストニアの作曲家、アルヴォ・ペルトやリトアニア系アメリカ人作曲家のフィリップ・グラスの作品を前半に並べた挑戦的・意欲的なプログラムともなったこのコンサートは、音楽関係者のみならず全国の音楽ファンから大変支持され多くのお客様に感動を与えました。

地震のため使用不能になった東京エレクトロンホール宮城で開催する予定だった仙台フィル×山響合同演奏会は仙台公演が中止となり、やまぎん県民ホールのみで7月23日に開催され、指揮には山形交響楽団桂冠指揮者の飯森範親が登壇し、ブルックナーの大作、交響曲第8番を取り上げ、両楽団の高い演奏水準を示しました。

コロナ禍における文化芸術に対する新たな支援策として国が打ち出した事業「オーケストラ・キャラバン」では令和4年度は2公演を獲得し、9月に盛岡市と大船渡市にて開催し、コロナ禍でイベントが中止や延期となっている地域に仙台フィルの音楽で潤いを与えました。

仙台銀行ホールイズミティ.21の大規模改修に伴う全館休館により縮小開催となった「仙台クラシックフェスティバル」は、9月30日から10月2日までの開催となりました。多くのソリストや音楽家を迎えた期間中仙台フィルは3公演開催することができました。

11月3日の日立システムズ「エンジョイ！クラシックコンサート」では白百合学園中学・高等学校オーケストラと、11月6日の仙台育英学園でのコンサートでは秀光中学校・育英高等学校のオーケストラ部との共演があり、若い世代との音楽を通じた交流が実現しております。

11月13日には令和4年に新規オープンした秋田芸術劇場ミルハスでの音楽イベント「第1回秋田・潟上音楽祭」に招かれました。この音楽祭には今後も毎年出演を予定しています。

11月30日には12月16日とセット公演になっているオーケストラ・スタンダード公演の第1弾として、次期指揮者に就任する太田弦と人気ピアニストの務川慧悟を迎え珠玉の名曲を多くのお客様にお楽しみいただきました。

12月の第2弾は昨年も好評だった元NHK交響楽団首席オーボエ奏者の茂木大輔を招き「いつかどこかで聞いたことのある音楽」をテーマに、運動会等で使用されていたクラシックでも耳なじみのある作品をピックアップしました。来場者の中には頬を緩めながら音楽に身をゆだねていた方が大勢見受けられました。

12月2日には、令和6年の多賀城創建1300年を記念するオペラプロジェクト「多賀城創世記」のプレ公演として、作曲家の川島素春の新作を演奏し、本公演へ向けての機運を高めました。

例年開催されていた七十七ふれあいコンサートは、コロナ禍により3年間中止を余儀なくされましたが、12月9日に3年ぶりに柴田町立船岡中学校で開催され、多くの在校生に音楽の楽しさを伝えることができました。

1月15日には爆笑！「音楽ものがたり」と題し、クラシック音楽と吉本芸人初のコラボによるコント仕立ての演奏会を初めて企画しました。司会には吉本住みます芸人で仙台市在住のバクコメ秀作をお招きし、指揮者には元仙台フィル副指揮者であり、近年はお笑い芸人の登竜門であるM-1グランプリで3回戦まで進出するというマルチな活動を展開している松元宏康を抜擢し、終始笑いの絶えない和やかな演奏会となりました。

2月19日には毎年開催している新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズが開催され、オーディションで選ばれた6名のソリスト（ピアノ2名、クラリネット、トランペット、声楽2名）と協奏曲で共演し、新人の育成に大いに貢献しました。

3月4日には東日本大震災翌年の平成24年（2012年）3月から継続的に開催

されている「みんなでつくる復興コンサート」(主催 TBS ラジオ、tbc 東北放送、特別協賛 日立物流)が、被害が著しかった石巻市に復興のシンボルとして建設されたマルホンまきあーとテラスにおいて開催されました。ゲストには復興活動に積極的に参加してきた歌手の森山良子を招き、美しい歌声とオーケストラの音色が鳴り響き、未だ続く震災からの復興活動への原動力となるようなコンサートとなりました。なお、例年同様このコンサートの模様はライブ及びアーカイブ配信されました。

(4) 室内楽

令和 4 年度も仙台市内のみならず、東北さらには全国各地で広く室内楽活動を行いました。

例年開催している東北電力スクールコンサートでは青森県平内町、奥入瀬町を訪問しました。

東北文化学園大学の主催で令和 3 年度から開催している秋保ワイナリーでの室内楽野外公演は、今年アートキャラバンみやぎとの連携により 10 月 15 日と 16 日、2 日間連続で開催されました。のどかなロケーションでの野外公演ということもあり、多くのお客様がワインと共に室内楽の調べに酔いしれました。

また、定禅寺通りミュージックカルチャー事業としてスタートした勾当台公園野外音楽堂でのプロジェクトについては、仙台フィル弦楽四重奏とポップスアーティストが特別なセッションを構成するというコンセプトで 8 月 6 日に開催を予定しておりましたが、出演するポップスアーティストの体調不良により 11 月 20 日に延期され、人気バンドであるサニーデイ・サービスとの共演により開催されました。このイベントは令和 5 年度以降も引き続き開催される予定です。

コロナ禍以降中止に追い込まれており、昨年度から再開されたサントリーホールディングスとの復興コンサート「サントリー&仙台フィル みんなのまちのコンサート」も 3 月 19 日に仙台駅前の S-PAL にて開催され、多くの市民の方々に震災に想いを寄せる演目を提供しました。

3. 青少年音楽鑑賞及び演奏等に関する指導及びその普及

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

仙台市が主催する小学校 5 年生と中学校 1 年生を対象とする「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は昨年度同様新型コロナウイルスの影響により中止となり、その代替公演として仙台市内の公立小学校を対象に室内楽による訪問ミニコンサートを開催し、66 校を訪問して音楽を届けました。

(2) 「文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業」及び「文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業」

全国各地の小中学校を訪問する文化庁主催「文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業」(7 校 12 公演)に加え、補正予算事業である「文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業」(2 公演)により、北海道、青森、秋田、宮城の小中学校を訪問して公演を行いました。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査研究

日本オーケストラ連盟加盟のオーケストラをはじめ、文化庁、日本芸術文化振興会、アフィニス文化財団、ロームミュージックファンデーション、日本クラシック事業協会との積極的な情報共有・連携を通じて、当団の運営や新型コロナウイルス感染症対策、新たな助成制度等について多くの知識を得ました。

毎年開催している各オーケストラのステージスタッフによる会議並びにライブラリアン会議はリモートにて開催し、情報共有や問題解決について活発な議論がなされました。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和 4 年度も新型コロナウイルスの蔓延のため感染症対策を行いながら、合唱団を編成しました。舞台上の人数制限を考慮して、40 名の市民合唱団をオーディションにより選出し、人数不足を解消するため東京混声合唱団の力も借りながら、12 月 24 日、25 日に歓喜の歌を響かせました。

(3) 仙台ジュニアオーケストラの指導

自然災害や新型コロナウイルスの蔓延に伴い数年にわたり公演が中止に追い

込まれていた仙台ジュニアオーケストラは、令和 4 年度は感染症対策をしっかりと講じた上でほぼ通常通りの活動を行うことができました。

令和 4 年 10 月 23 日には第 30 回の定期演奏会を、そして令和 5 年 3 月 12 日にはスプリングコンサートを開催しました。加えて令和 4 年度は、8 月 5 日～8 日に「響け！復興へのハーモニーin 沖縄～つながる未来～」へ出演や 8 月 19 日～22 日には「ジュニアオーケストラ・フェスティバル 2022 in NIIGATA」に出演するなど充実した活動を行うことができました。

スーパーヴァイザーの高関健指導のもと、子供たちの演奏技術は飛躍的に向上しています。

(4) ラジオ放送とソーシャルメディアの活用

毎月第 1 日曜日夜に放送中のエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和 4 年度も楽団員 1 名と事務局員 1 名の出演により、歴代の仙台フィル演奏会より厳選した音源をセレクトしてお届けし、好評を得ました。そのほか、コンサートマスター西本幸弘が出演している「TOHKnet Sound Pizz.」や「サンデークラシックス」でも仙台フィルの情報を発信しています。tbc 東北放送では引き続き毎月第 2 土曜日夜に「日立システムズエンジョイ！クラシック」が継続放送されており、コンサートマスターの西本幸弘（8 月～11 月）、チェロソロ首席奏者の三宅進（12 月～3 月）、オーボエ首席奏者の西沢澄博（4 月～7 月）がナビゲータを務めています。これら放送媒体に加え、公式 Twitter、公式 Facebook などの SNS による情報発信を積極的に行っています。

令和 4 年度より LINE 公式アカウントを取得し幅広い層に演奏会の案内を届けているほか、各定期演奏会の指揮者を中心に、聴きどころを事前に仙台フィル公式 YouTube チャンネルにて配信しており、好評を得ています。

(以上 敬称省略)

【参考資料】

(1) 定期演奏会 (18 公演)

・第 354 回～362 回 (金土 2 回公演)

会場：日立システムズホール仙台・コンサートホール

開演：金曜日午後 7 時・土曜日午後 3 時

回	開催日	出演者	演奏曲目
354	4. 15 (金) 4. 16 (土)	指揮：角田鋼亮 サクソフォン：上野耕平	バックス：交響詩「ティンタジェル」 イベール：アルトサクソフォンと 11 の楽器のための室内小協奏曲 トマジ：アルトサクソフォンのための「バラード」 ムソルグスキー／ラヴェル編：組曲「展覧会の絵」
355	5. 6 (金) 5. 7 (土)	指揮：飯守泰次郎 ピアノ：菊池洋子	ブラームス：ピアノ協奏曲第 1 番 二短調 op. 15 ブラームス：交響曲第 4 番 ホ短調 op. 98
356	7. 15 (金) 7. 16 (土)	指揮：井上道義 イングリッシュホルン： 木立至 トランペット：浦田誠真	コープランド：クワイエット・シティ コープランド：バレエ組曲「ピリー・ザ・キッド」 グローフェ：組曲「グランド・キャニオン」
357	9. 16 (金) 9. 17 (土)	指揮：パスカル・ヴェロ	ストラヴィンスキー：室内オーケストラのための協奏曲 変ホ長調「ダンバートン・オークス」 シューベルト：交響曲第 5 番 変ロ短調 D. 485 ストラヴィンスキー：バレエ音楽「ペトルーシュカ」(1947 年版)
358	10. 7 (金) 10. 8 (土)	指揮：飯守泰次郎 チェロ：佐藤晴真	ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 op. 104 シューマン：交響曲第 3 番 変ホ長調 op. 97「ライン」
359	11. 18 (金) 11. 19 (土)	指揮：下野竜也 ヴァイオリン：三浦文彰	ハイドン：交響曲第 41 番 八長調 Hob. I, 41 ベルク：ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」 モーツァルト：交響曲第 41 番 八長調 K. 551「ジュピター」
360	2023 年 1. 27 (金) 1. 28 (土)	指揮：マキシム・パスカル	ラヴェル：スペイン狂詩曲 ブリテン：歌劇「ピーター・グライムス」op. 33a より “4つの海の間奏曲” ムソルグスキー：交響詩「禿山の一夜」(原典版) デュティユー：交響曲第 1 番
361	2. 17 (金) 2. 18 (土)	指揮：高関健 ピアノ：小山実稚恵	ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第 5 番 変ホ長調 op. 73 ショスタコーヴィチ：交響曲第 10 番 ホ短調 op. 93
362	3. 17 (金) 3. 18 (土)	指揮：飯守泰次郎	ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」より“前奏曲と愛の死” ブルックナー：交響曲第 7 番 ホ長調 WAB. 107

(2) 特別演奏会 (開催 9 公演) 公演中止 2 公演

	開催日	出演者	演奏曲目
オーケストラと遊んじゃおう 2022	4. 10 (日) 2 公演	指揮：岩村力 構成・司会・ピアノ： 加藤昌則	加藤昌則：How to make an orchestra ラヴェル：組曲「マ・メール・ロワ」より J. シュトラウスⅡ：ポルカ「雷鳴と電光」 ビゼー：「アルルの女」より 他 ※開演前に指揮者体験コーナーを開催。
仙台フィル×山響 合同演奏会	7. 24 (日)		東京エレクトロンホール地震災害復旧のため使用不可。公演中止。

サマーフェスティバル仙台フィルハーモニーwithアキラさんスペシャルコンサート vol. 1	8. 6 (土)		東京エレクトロンホール地震災害復旧のため使用不可。公演中止。
マイタウンコンサート in 岩沼	8. 21 (日)	指揮：松本宗利音 ヴァイオリン：辻彩奈	ビゼー：序曲「祖国」 メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op. 64 ビゼー：交響曲第1番 八長調
もりのみやこふれあいコンサート 【無観客配信】	12. 7 (水)	指揮：松村秀明	ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲より“スイス軍の行進”、マスカーニ：歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲、チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」より ほか
第九特別演奏会	12. 24 (土) 12. 25 (日)	指揮角田鋼亮 ソプラノ：秦茂子 メゾ・ソプラノ：小泉詠子 テノール：糸賀修平 バリトン：伊藤貴之 合唱：仙台フィルと第九をうたう会、東京混声合唱団	木下牧子：混声合唱とオーケストラのための「たいようオルガン」 ベートーヴェン：交響曲第9番 二短調 op. 125「合唱付き」
名曲コレクション「ニューイヤーコンサート」	2023年 1. 8 (日) 福島 1. 9 (月) いわき	指揮：現田茂夫 箏：遠藤千晶	嶋津武仁：オーケストラのためのポエム「小石のごとく」 團伊玖磨：シルクロード 宮城道夫／近衛秀麿・直麿編：平調「越天楽」による箏変奏曲 リムスキー＝コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」
「日本のオーケストラ音楽」展	2. 23 (木)	指揮：高関健 合唱：NHK 仙台少年少女合唱隊、宮城教育大学附属小学校有志	武満徹：鳥は星形の庭に降りる 間宮芳生：児童合唱とオーケストラのためのコンポジション「子供の領分」 三善晃：交響三章

(3) 依頼演奏会（開催 61 公演） ※公演中止 14 公演

主 催 者	公 演 数	備 考
第8回仙台国際音楽コンクール	14 公演	
文化庁（文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業）、（文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業）	14 公演	
仙台市教育委員会等 （青少年のためのオーケストラ鑑賞会）	0 公演	代替公演として室内楽による学校訪問ミニコンサートを実施
仙 台 市（含む関係団体）	7 公演	仙台市制施行、仙台クラシックフェスティバル（3 公演）、オーケストラ・スタンダード（2 公演）、爆笑！音楽ものがたり
宮 城 県（県民ロビーコンサート・地方音楽会）	3 公演	
藤 崎（ニューイヤーコンサート）	1 公演	
一 般 依 頼 各種コンサート	22 公演	
依頼公演合計	61 公演	

依頼演奏会（開催 61 公演）

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
4. 27 (水)	杜の都信用金庫 県民ロビーコンサート (宮城県庁)	指揮：平川範幸	主催：宮城県
5. 1 (日)	八戸市公会堂ガラ・コンサート (八戸市公会堂)	指揮：松井慶太	主催：八戸市公会堂
5. 27 (金) 5. 28 (土) 5. 29 (日) [3 公演]	第 8 回仙台国際音楽コンクール Vn 部門セミファイナル (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：広上淳一	主催：仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、仙台市市民文化事業団
6. 2 (木) 6. 3 (金) 6. 4 (土) 6. 5 (日) [4 公演]	第 8 回仙台国際音楽コンクール Vn 部門ファイナル、ガラ・コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：広上淳一	主催：仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、仙台市市民文化事業団
6. 10 (金)	アイリスオーヤマクラシックスペシャル 2022 (東京オペラシティ・コンサートホール)	指揮：高関健 ヴァイオリン：ギドン・クレメール チェロ：ギードレ・ディルヴァナウスカイト	主催：アイリスオーヤマ(株)
6. 17 (金) 6. 18 (土) 6. 19 (日) [3 公演]	第 8 回仙台国際音楽コンクール Pf 部門セミファイナル (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：高関健	主催：仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、仙台市市民文化事業団
6. 23 (木) 6. 24 (金) 6. 25 (土) 6. 26 (日) [4 公演]	第 8 回仙台国際音楽コンクール Pf 部門ファイナル、ガラ・コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：高関健	主催：仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、仙台市市民文化事業団
7. 4 (月)	仙台市市制施行 133 周年記念コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：大井剛史 ピアノ：佐藤元洋	主催：仙台市
7. 23 (土)	山響×仙台フィル合同演奏会山形公演 (やまぎん県民ホール)	指揮：飯森範親 共演：山形交響楽団	主催：(公社) 山形交響楽協会
8. 23 (火)	クロネコファミリーコンサート～音楽宅急便～ (マルホンまきあーとテラス)	指揮：飯森範親	主催：ヤマトホールディングス(株)
8. 28 (月)	久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol. 4 (久慈市文化会館アンバーホール)	指揮：茂木大輔 ソプラノ：間口友美 テノール：片寄純也 バリトン：田村洋貴	主催：久慈市文化会館アンバーホール
9. 1 (木) 9. 3 (土) [2 公演]	「オーケストラキャラバン」2022 盛岡公演 (盛岡市市民文化ホールマリオス) 「オーケストラキャラバン」2022 大船渡公演 (大船渡リアスホール)	指揮：山下一史 ピアノ：小井土文哉	主催：(公社) 日本オーケストラ連盟
9. 6 (火) [2 公演]	文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業 (青森県平内町立小湊小学校) 2 回公演	指揮：佐々木新平	主催：文化庁
9. 11 (日)	仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサート in くりはら (若柳総合文化センタードリームパル)	指揮：水戸博之	主催：栗原市

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
9.24(土) 9.25(日) [2公演]	刀剣乱舞「宴奏会」2022 (仙台サンプラザホール)	指揮：山脇幸人	主催：(株)ソニー・ミュージック・ソリューションズ
9.27(火)	文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業 (マルホンまきあーとテラス)	指揮：松元宏康	主催：文化庁
9.30(金) 10.2(日) [3公演]	仙台クラシックフェスティバル (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：太田弦 ヴァイオリン：神尾真由子 ピアノ：牛田智大 クラリネット：伊藤圭	主催：仙台市、仙台市市民文化事業団
10.14(金) 10.18(火) 10.25(火) 10.26(水) 10.27(木) [9公演]	文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業 (秋田県小坂町立小坂小・中学校)2回公演 (宮城県仙台市立川前小学校)2回公演 (北海道釧路市立中央小学校)2回公演 (北海道札幌市立丘珠中学校) (北海道小樽市立北稜中学校)2回公演	指揮：佐々木新平	主催：文化庁
11.3(木)	エンジョイ！クラシックコンサート2022 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：角田鋼亮 ヴァイオリン：西本幸弘 オーボエ：西沢澄博 共演：仙台白百合学園中学・高等学校オーケストラ	主催：tbc 東北放送
11.4(金)	文化芸術による子供育成推進事業・文化施設等活用事業 (マルホンまきあーとテラス)	指揮：松元宏康	主催：文化庁
11.6(日)	“STAND” 仙台育英学園・仙台フィルジョイントコンサート (仙台育英学園ゼルコバホール)	指揮：平川範幸 共演：秀光中学校・仙台育英高等学校オーケストラ部	主催：学校法人仙台育英学園
11.13(日)	第1回秋田・潟上音楽祭 (秋田芸術劇場ミルハス大ホール)	指揮：横山奏 ピアノ：アンリ・バルダ ヴァイオリン：正戸里佳	主催：秋田・潟上音楽祭実行委員会、秋田県、秋田市、潟上市、コンサートイマジン、アートオフィスさいち、潟上芸術文化振興会
11.23(水) [2公演]	秋のアキラさんのお楽しみコンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)2回公演	指揮・ピアノ：宮川彬良 ダンス：宮川安利	主催：(公財)オリックス宮内財団
11.27(日)	第36回岩沼みんなで歌う第九の会演奏会 (岩沼市民会館)	指揮：松井慶太 ソプラノ：小野綾子 アルト：在原泉 テノール：宮西一弘 バリトン：小森輝彦	主催：みんなで歌う第九の会
11.30(水)	オーケストラ・スタンダード Vol.28 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：太田弦 ピアノ：務川慧悟	主催：仙台市、仙台市市民文化事業団
12.2(金)	アートキャラバン宮城圏域ホール連携事業「火の鳥ファンタジー」 (日立システムズホール仙台・シアターホール)	指揮：川島素晴 共演：SCS ミュージカル研究所	主催：(公社)日本芸能実演家団体協議会、アートキャラバン宮城圏域ホール連携事業実行委員会
12.9(金)	七十七ふれあいコンサート (柴田町立船岡中学校)	指揮：横山奏	主催：七十七銀行

開催日	演奏会名	出演者	主催者等
12. 16 (金)	オーケストラ・スタンダード Vol. 29 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：茂木大輔 ヴァイオリン：神谷未穂	主催：仙台市、仙台市市民文化事業団
23年 1. 5 (木)	藤崎ニューイヤーコンサート 2023 (電力ホール)	指揮：現田茂夫 箏：遠藤千晶	主催：藤崎
1. 15 (日)	爆笑！「音楽ものがたり」コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：松元宏康 司会：秀作（バクコメ）	主催：仙台市、仙台市市民文化事業団
1. 30 (月)	みやぎ生協 40 周年特別企画コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：円光寺雅彦 ソプラニスタ：岡本知高	主催：みやぎ生協
2. 1 (水) [2 公演]	コープふくしま 90 周年特別企画コンサート (福島市音楽堂)		
2. 4 (土)	新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズ (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮：鈴木織衛 ピアノ：加藤直子 トランペット：渡部楓華 ソプラノ：芳賀あずさ ピアノ：中山小耀子 クラリネット：阿部寛己 ソプラノ：岩住久未	主催：(公社) 日本演奏連盟
2. 11 (土) 2. 12 (日) [2 公演]	令和 4 年度宮城県地方音楽会 (七ヶ浜国際村ホール) (気仙沼市民会館)	指揮：出口大地 オーボエ：高橋鐘汰	主催：宮城県 七ヶ浜町 気仙沼市
3. 2 (木)	文化芸術による子供育成推進事業・巡回公演事業 (名取市立不二が丘小学校)	指揮：平岡範幸	主催：文化庁
3. 4 (土)	みんなで作る復興コンサート (マルホンまきあーとテラス)	指揮：鈴木織衛 ゲスト：森山良子 合唱：仙台南高校音楽部	主催：TBS ラジオ Tbc 東北放送